

悲願の「かながわ消防」創設へ

公明党 鈴木ひでし

東日本大震災から5年、議において、黒岩祐治知事

県は来年度から、県内で大規模災害や事故が発生した際に、政令市を含む全消防本部からの応援部隊を一元的に登録・運用する「かながわ消防」を発足させます。

県内25本部を一元的に

先日行われた県議会本会

心から喜んでおります。この「県消防広域運用調整本部」(略称)は、一昨年から私が創設を訴え続けてきたものでした。今回、県の悲願が実現できたこと、

とした各消防隊による広域的な応援体制を築いており、それをもとにさらに発展させることになりました。これにより、大規模災害や事故発生時などでも重要とされる初動の迅速化につながり、広域かつ的確な活動で一人でも多くのいのちが救われる可能性が広がりました。

一昨年に体制構築を提言

度、かつ機動的な神奈川県消防を確立するため、「神奈川県消防庁」の創設を黒岩知事に提言。県内の消防本部全体を統括する体制の構築が必要だと訴えました。当時、これに対し黒岩知事は、「仮に県内全体を統括する一元化された指揮命令体制があれば、より迅速で機動的に対処できる」とし、幅広く検討する考えを示していました。



2003年神奈川県議会議員初当選。
公明党神奈川県本部副代表
第109代神奈川県議会副議長
HP <http://www.hideshi-suzuki.com/>
FB <https://www.facebook.com/turumi.hideshi.suzuki>

する形で行われていました。かながわ消防は、各消防本部の応援部隊を事前に登録し、県が一元的に調整して派遣するもの。昨年、箱根山の火山活動が活発化し、噴火警戒レベルが上がった際、円滑な応援活動が取れるようにと、県を中心

消防組織法では、消防責任を負うのは市町村とされています。しかしながら、5年前の震災をはじめ、近年の災害をみると、消防活動の広域化が必要だと、私は常々感じておりました。

そこで私は一昨年2月の本会議において、均質で高携わってまいります。